

変りゆく社会と子育てのゆくえ

子育てにみる
男女共同参画

ひと昔前までは、まるで空気のように存在していた子育てのネットワーク(家には大人が複数いて、地域には育児仲間や遊び友達がいる)が無くなってしまった状況の中で、お母さんたちは文字通り「絶対孤独」の子育てを強いられているのです。～育児離れ「なんどでもやり直せ!」ほくの体験的子育て論はり～

「3歳までは母親が家で育てるべき」という、「3歳児神話」にしばられない、社会の変化にあった子育てをテーマに、平成13年9月15日・10月20日・11月17日に、ビデオ視聴とアドバイザーとの懇談による「男女共同子育て講座」を開催しました。

第1回

「3歳児神話をこえて」

母親の一人育児と育児不安・児童虐待

■ビデオ講師

臨床心理士・
カウンセラー

村本邦子さん

■アドバイザー

家庭教育
アドバイザー

三重野待子さん



三重野待子さん

●育児不安はなぜ起こるのでしょうか

子どもの数が減って赤ちゃんに接する機会がなく、育児体験の受け渡しができないことや、核家族や孤立したマンションでの子育てによって、母親の責任が大きくなったこと、また、周りに素直に相談できる人もなく、精神的孤立に陥ることなどがあげられます。

●育児不安と虐待をなくすには

虐待は、親子の力関係を背景に、閉鎖された空間で起こります。

子育てストレスを減らすことが大切で、一人で背負わず、できないことは夫や周りの人に助けてもらいましょう。母親というものが、神話化されていますが、昔とは大きく子育ての環境も変わってきており、母親一人ですべてができるはずがありません。子どもにとっても、母親だけと接するより、いろいろな価値観を持った多くの人と接することが大切です。

第2回

「3歳児神話をこえて」

母性神話に寄りかからないで生きる

■ビデオ講師

保健師

赤松彰子さん

■アドバイザー

大分保健所
保健師

軸丸千賀子さん



軸丸千賀子さん

●母性神話って…?

「母性は本能」。「女の子はままごことが好き」。「女は子供を産んで一人前」などが、知らず知らず刷り込まれ、母親をしばってききました。

●母性本能が消えた…?

最近、子どもを死なせてしまったり、虐待したり、痛ましい事件を多く耳にします。世間では、母親に母性本能がなくなったという声を聞きますが、母性本能がなくなったのではなく、人と人とのつながりが無くなったことによっても、母親がつかない立場に追いやられたのです。子育ては地域の問題でもあります。だれか相談する人が必要です。

●子育ての基本は?

子どもをいかに早く巣立ちさせるかです。一生懸命世話をし、つくす事ではありません。母親も自分の人生を精一杯生き、自分の生き方に自信を持つことです。

第3回 「3歳児神話をこえて」 男性と子育て

■ビデオ講師

東京大学大学院
教育学研究科教授 沙見稔 幸 さん

■アドバイザー

社会保険労務士、
春日町小中学校校長 西村慶治 さん



西村慶治さん

●男性の子育ての必要性

昔は地域に子どもがあふれ、子供を地域に放っておいても育っていました。現代のように、子どもを朝から晩まで見ていなければならない時代は過去、原始の時代からありません。
親はつらい育児にいららし、ストレスを抱えてしまいます。子育てを、母親一人でするはずがありません。父親が積極的に育児に参加しなければ、子どもはうまく育ちません。

●子育てはしないと損ですよ！

子育てに関わると子どもの心の深いところが分かります。心の成長に関わる事は人生の喜びです。育児をしないで、突然子どもが不登校といつても、子どもに何を言っても通じません。心が通うということは、どういふことか考えさせられます。育児をするたび、人は成長していくはずで、母親も父親もそういうふうな育児をしないと損ですよ。

懇談会での意見

男性A

今4ヶ月の子どもがいます。家事や育児をやるうと思つていますが、やり方を自ら学ぼうとしていません。いつも妻からの指示待ちです。子育てを自分でしないと楽しみが分からないというところがよく分かりました。

女性A

4才の娘がいます。夫は勤務が不規則です。子どもができたばかりの時は、気分がブルーになりました。夫も子どもが可愛いだけけれど、緊張と不安で、子どもをどう扱っていいのか分からなかつたようです。夫の協力が得られないとストレスが溜まり、つい子どもにあたつてしまいい、かわいそうな思いをさせてしまいました。

男性B

今日は妻に連れられて、嫌々来ました。これまで子育ては妻がやってあたりまえと思つていました。早く帰ると、「面倒をみて」といわれるが、仕事で疲れて、「土日はみてね」といわれるが、土日休むから働ける。だから、自分から積極的に家事・育児をやるうという気が起こりません。子育てが楽しいことと、まだ気がついていません。今日は、いい機会でした。ちょっと考え直そうかと思つています。

男性Bの妻

その言葉を持つていました。少しでも主人の気持ちが変わればと思つて連れて来ました。これまで、子育てイコール喧嘩でした。「私はこんなにがんばつてゐるのに、あなたは仕事なの？」と言つと、「仕事しないと生活できないだろう」と言う具合です。主人も子どもが可愛くない訳ではありません。どうやれば子どもをいい感じで育てられるのか、私だけではだめだし、でも主人の仕事も大事。そんな葛藤の連続でした。今日この講座を受けてもらつてよかつた。

アンケートから

- ・父親と母親がお互いを補いながら子育てすることが大切だと思つています。この講座に夫を連れてくればよかつた。
- ・子どもは一人で育てられないし、一人で育ててはいけないとつくづく思つています。
- ・父親がサポートしてこそ母親のストレス緩和につながります。父親と母親の共働き子育てが大賛成です。
- ・本当に心温まる気持ちになりました。これからいろいろな不安が出てくると思つています。いろいろな話を聞く中で、視野も広がるので、このような企画を期待しています。
- ・このビデオを多くの人に届けてもらいたいと思つています。

アドバイザーから一言

三重野待子さん

母親一人で育児をするのではなく、みんなが子育てを補うことです。それは子どもにとつても良いことです。

軸丸千賀子さん

子育てで、何か不安や問題を抱えたら、一人で悩まないで、保健所や保健師を気軽に利用してください。

西村慶治さん

ビデオの中に子育てのヒントがありました。今、私たちは難しい時代に生きています。子育ては時代づくりであり、われわれの未来づくりです。

大好評です

今回使用したビデオは、財団法人大阪府男女協働社会づくり財団が制作した、「3歳児神話をこえて」全5巻シリーズの中から、3巻を選んでものです。これらのビデオを女性政策推進室では無料でお貸ししています。お友達や、ご家族、また、講座等でお気軽にご利用ください。